

野菜の需給・価格動向レポート(平成27年11月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	10月の価格情報					11月	入荷量及び主要産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し	「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格				
		上旬	中旬	下旬					
キャベツ	74.19	134 (181%)	122 (164%)	97 (131%)	72.93	・入荷量: 12,960t ・主産地: 千葉(44)、愛知(24)、茨城(14)		<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、最近の好天により生育は回復傾向にあることから、今後は平年並みの出荷の見込み。愛知産は、現在平年並みの出荷となっており、最近の干ばつ傾向のためやや小玉傾向となっているものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、9月上旬の大雨によるほ場の冠水や苗の流出の影響で、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。 茨城産は、平年よりやや少なめの出荷と見込まれるものの、千葉産は平年並みの出荷に回復し、愛知産も順調な出荷が見込まれることから、価格は平年に近づきつつあることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。 	
	88.91	136 (153%)	128 (144%)	106 (119%)	76.91	・入荷量: 3,667t ・主産地: 愛知(56)、茨城(19)、兵庫(7)			
たまねぎ	76.15	73 (96%)	68 (89%)	65 (85%)	76.15	・入荷量: 10,295t ・主産地: 北海道(95)		<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、生育期に天候に恵まれ順調な生育であったことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 	
	76.15	73 (96%)	69 (91%)	70 (92%)	76.15	・入荷量: 3,625t ・主産地: 北海道(74)、兵庫(25)			
ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	240.04	299 (125%)	274 (114%)	205 (85%)	240.04	・入荷量: 6,189t ・主産地: 青森(16)、新潟(14)、秋田(13)、茨城(11)、埼玉(8)、群馬(7)、山形(6)、千葉(6)		<ul style="list-style-type: none"> 青森産、新潟産及び秋田産は、現在平年並みの出荷となっており、生育も順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。後続の茨城産は、秋冬ものの作型が天候不順の影響で生育遅れがみられ、夏ものの作型との端境となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、青森産、新潟産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 	
	467.01	673 (144%)	666 (143%)	574 (123%)	467.01	・入荷量: 1,163t ・主産地: 香川(19)、奈良(19)、徳島(19)、三重(12)、高知(10)、大阪(9)			
はくさい	56.81	81 (143%)	100 (176%)	63 (111%)	40.32	・入荷量: 12,999t ・主産地: 茨城(83)		<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、9月中旬までの天候不順の影響による定植や生育の遅れから徐々に回復し、増加傾向であるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 茨城産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。 	
	69.44	81 (117%)	102 (147%)	65 (94%)	55.95	・入荷量: 4,921t ・主産地: 長野(38)、茨城(33)、熊本(8)			
ほうれんそう	385.11	602 (156%)	506 (131%)	373 (97%)	385.11	・入荷量: 1,611t ・主産地: 群馬(42)、茨城(16)、千葉(13)、埼玉(9)		<ul style="list-style-type: none"> 群馬産及び千葉産は、9月中旬以降の天候に恵まれて、病害もなく生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。茨城産は、作付面積の増加に加え、病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 群馬産、茨城産及び千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 	
	461.74	668 (145%)	605 (131%)	445 (96%)	461.74	・入荷量: 616t ・主産地: 岐阜(35)、福岡(27)、徳島(25)			
レタス (結球)	158.27	279 (176%)	208 (131%)	164 (104%)	143.63	・入荷量: 6,968t ・主産地: 茨城(67)、兵庫(8)、静岡(6)、香川(3)		<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、9月の大雨後に定植したほ場からの出荷となっており、特段の病害もなく生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。兵庫産は、天候不順の影響で定植や生育の遅れがあったが、最近の天候に恵まれ生育は回復し、現在は平年並みの出荷であるが、今後は天候回復後に定植したほ場からの出荷が見込まれることから、平年よりやや多めの出荷の見込み。 茨城産及び兵庫産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 	
	152.57	306 (201%)	215 (141%)	156 (102%)	154.61	・入荷量: 1,542t ・主産地: 兵庫(42)、茨城(19)、徳島(15)、香川(13)			
きゅうり	262.75	256 (97%)	260 (99%)	236 (90%)	262.75	・入荷量: 4,682t ・主産地: 埼玉(26)、群馬(18)、宮崎(18)、千葉(10)、高知(10)		<ul style="list-style-type: none"> 埼玉産は、天候に恵まれ生育は順調であるものの、作付面積の減少により、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、天候不順の影響により、病害が見られ生育はやや不良であるものの、晩抑制の作型の作付面積増加により、現在平年並みの出荷となっているが、今後は越冬作の作付面積の減少から、平年よりやや少なめの出荷の見込み。宮崎産は、定植後の天候に恵まれていることから生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。 宮崎産の出荷が平年並みと見込まれるものの、埼玉産及び群馬産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、平年に近づきつつあることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。 	
	284.72	261 (92%)	280 (98%)	238 (84%)	284.72	・入荷量: 892t ・主産地: 宮崎(43)、高知(22)、大阪(9)、群馬(9)			
トマト (大玉)	315.83	431 (136%)	430 (136%)	354 (112%)	315.83	・入荷量: 4,948t ・主産地: 熊本(32)、千葉(17)、愛知(14)、茨城(12)		<ul style="list-style-type: none"> 熊本産は、夜温が低いものの、着果状況は順調で現在平年並みの出荷となっているが、今後は好天が続いているため、生育は順調で平年よりやや多めの出荷の見込み。千葉産は、天候不順の影響による生育遅れから回復傾向で、最近の天候に恵まれていることもあり、引き続き平年並みの出荷の見込み。愛知産は、天候不順からの影響から回復し現在平年並みの出荷となっているが、今後は天候に恵まれ病害もなく着果状態が良いことから生育は順調で平年よりやや多めの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、熊本産及び愛知産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を下回って推移する見込み。 	
	337.88	415 (123%)	442 (131%)	389 (115%)	337.88	・入荷量: 975t ・主産地: 熊本(61)、愛知(7)			
なす	301.00	325 (108%)	338 (112%)	292 (97%)	301.00	・入荷量: 2,366t ・主産地: 高知(54)、福岡(14)、栃木(10)		<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、最近の天候に恵まれ着果も良好で特段の病害もないことから生育は順調で、引き続き平年並みの出荷の見込み。福岡産は、天候不順の影響により定植が遅れたことに加え、夜温が低く生育遅れが見られ、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は最近の天候に恵まれていることから、生育は回復基調で特段の病害もなく概ね順調であることから、平年並みの出荷の見込み。 高知産及び福岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みとなる見込み。 	
	263.21	317 (120%)	326 (124%)	274 (104%)	263.21	・入荷量: 454t ・主産地: 高知(42)、熊本(24)、福岡(16)、岡山(9)			
ピーマン	263.58	347 (132%)	310 (118%)	318 (121%)	378.83	・入荷量: 2,108t ・主産地: 茨城(51)、宮崎(20)、高知(13)		<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、越冬作は天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。宮崎産は、最近の天候に恵まれ、病害の発生もなく生育は順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 茨城産及び宮崎産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。 	
	282.16	347 (123%)	328 (116%)	308 (109%)	371.29	・入荷量: 456t ・主産地: 宮崎(41)、高知(17)、鹿児島(13)、茨城(8)			
だいこん	67.55	97 (144%)	85 (126%)	69 (102%)	67.55	・入荷量: 12,605t ・主産地: 千葉(62)、神奈川(14)、青森(12)		<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、天候不順の影響による生育の遅れから天候の回復に伴い、生育は回復し順調であることから引き続き平年並みの出荷の見込み。神奈川産は、天候不順の影響で播種作業の遅れがあり、その後の天候に恵まれ病害もなく生育は順調であるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 神奈川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みとなる見込み。 	
	76.48	95 (124%)	94 (123%)	84 (110%)	76.48	・入荷量: 2,922t ・主産地: 長崎(19)、徳島(14)、千葉(11)、和歌山(11)、石川(9)、青森(9)			
にんじん	123.08	108 (88%)	107 (87%)	102 (83%)	105.86	・入荷量: 7,439t ・主産地: 千葉(45)、北海道(38)		<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、天候不順の影響で生育に遅れが見られ、小ぶり傾向であるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、出荷終盤期でまとまった出荷は10月で終了。生育は順調で倒伏し出荷となっていた影響で、残量が少ないことから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みとなる見込み。 	
	123.11	103 (84%)	104 (84%)	101 (82%)	104.49	・入荷量: 2,628t ・主産地: 北海道(54)、長崎(37)			
さといも	220.97	298 (135%)	284 (129%)	248 (112%)	220.97	・入荷量: 1,263t ・主産地: 埼玉(60)、千葉(16)		<ul style="list-style-type: none"> 埼玉産は、天候に恵まれ病害もなく生育は順調であるが、他品目の収穫と重なり現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、他品目の収穫も終了して、今後は平年並みの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、現在平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は平年並みの出荷の見込み。 埼玉産及び千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みとなる見込み。 	
	217.56	286 (131%)	277 (127%)	274 (126%)	217.56	・入荷量: 337t ・主産地: 愛媛(42)、宮崎(25)、福井(18)、熊本(5)、鹿児島(3)			

種類	10月の価格情報				11月	入荷量及び主要産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック 旬別平均販売価額					
		上旬	中旬	下旬			
類 ばれいしょ	96.99	103 (106%)	101 (104%)	97 (100%)	96.99	・入荷量：7,677t ・主産地：北海道(98)	<p>「図の見方」 現時点の価格水準 平均価格 今後の価格水準</p>
	96.99	95 (98%)	94 (97%)	91 (94%)	96.99	・入荷量：3,292t ・主産地：北海道(92)、長崎(8)	

注：1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。
2 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年見込(さといもは前年実績)、近畿は前年実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価額を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

種類	10月の価格情報				11月	入荷量及び主要産地	生育及び価格の11月中旬までの見通し
	(参考) 過去5カ年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格					
		上旬	中旬	下旬			
洋菜類 ブロッコリー	358.00	542 (151%)	510 (142%)	445 (124%)	282.00	・入荷量：2,547t ・主産地：埼玉(47)、群馬(12)、愛知(10)、栃木(6)、香川(4)、千葉(3)	
	387.00	548 (142%)	542 (140%)	476 (123%)	367.00	・入荷量：634t ・主産地：鳥取(35)、徳島(18)、長崎(7)、長野(6)、北海道(5)、輸入(5)	
根菜類 ごぼう	226.00	250 (111%)	254 (112%)	247 (109%)	210.00	・入荷量：1,285t ・主産地：青森(81)、茨城(10)、北海道(3)	
	154.00	201 (131%)	189 (123%)	188 (122%)	157.00	・入荷量：783t ・主産地：北海道(38)、青森(34)、茨城(21)、輸入(3)	

注：1 平均価格は、過去5年間(平成22年から26年)の東京及び大阪市中央卸売市場の価格。
2 旬別価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の80%)を下回るもの(消費税は除く)。
3 単位は円/kg、上段は東京中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場である。
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5カ年平均の数値である。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで前年実績である。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、9月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4.836gで前年比103%、購入金額は、2,143円で同116%となった。
また、小売物価統計によると、10月のキャベツの小売価格は、299円で過去5カ年平均比172%、トマトは、823円で同104%、だいこんは、182円で同98%、ばれいしょは、328円で同103%となり、だいこんで前年を下回ったものの、その他の品目で前年を上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額(1人当たりの購入数量と購入金額)

年	過去5カ年平均		平成26年		平成27年	
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)
1月	4,272	1,640	4,379	1,775	4,374	1,755
2月	4,485	1,666	4,646	1,742	4,609	1,761
3月	4,868	1,811	4,958	1,878	4,921	1,939
4月	4,765	1,855	4,871	1,887	4,693	1,907
5月	5,089	1,917	5,146	1,993	4,968	2,257
6月	5,056	1,902	4,998	1,976	5,044	2,157
7月	4,402	1,737	4,542	1,770	4,353	1,966
8月	4,315	1,731	4,275	1,846	4,240	1,998
9月	4,688	1,844	4,745	2,035	4,836	2,143
10月	5,191	1,902	5,455	1,973		
11月	4,990	1,700	5,291	1,704		
12月	5,146	1,927	5,233	1,977		

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯(農林漁家世帯を除く))」
注：半年は、過去5カ年平均(平成22～26年)。

主要野菜の小売価格(東京都区部)

	キャベツ		トマト		だいこん		ばれいしょ	
	平成27年	前年比(%)	平成27年	前年比(%)	平成27年	前年比(%)	平成27年	前年比(%)
1月	229	108	663	99	154	102	313	99
2月	202	91	696	107	170	100	316	100
3月	169	82	766	109	157	91	324	102
4月	255	105	747	106	192	110	358	106
5月	273	168	702	114	212	138	409	114
6月	188	137	648	116	160	107	443	126
7月	167	104	608	105	188	116	474	144
8月	188	136	593	102	199	122	437	134
9月	226	143	748	109	204	110	343	106
10月	299	172	823	104	182	98	328	103
11月								
12月								

資料：総務省「小売物価統計調査報告」
注：1 半年は過去5カ年平均(平成22～26年)。
2 平成27年10月の値は、10月中旬の速報値。

3 野菜の輸出入動向

貿易統計によると、9月の野菜の輸入量は、生鮮野菜は、5万7千トン(前年同月比98%)、加工野菜は13万2千トン(同93%)、野菜全体は、18万9千トン(同94%)となった。このうち、中国産野菜合計は11万1千トン(同99%)のとなった。
生鮮野菜及び加工野菜で、前年を下回ったことから、野菜全体では前年をかなりの程度下回った。

野菜の輸入数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月～9月		平成27年9月	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比
生鮮野菜	854,420	90	884,735	104	647,932	93	57,361	98
加工野菜	1,854,679	97	1,785,487	96	1,313,042	96	132,044	93
野菜合計	2,709,100	95	2,670,222	99	1,960,974	95	189,405	94
うち中国産野菜合計	1,416,557	97	1,409,604	100	1,003,009	95	111,457	99
中国産シェア	52		53		51		59	

主な生鮮野菜の輸入先(平成27年9月)

	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	21,382	中国	20,855	アメリカ	515	ニュージーランド	12
にんじん及びかぶ	7,547	中国	7,438	オーストラリア	90	ニュージーランド	11
ねぎ	5,402	中国	5,402				

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

野菜の輸出数量

区分	平成25年		平成26年		平成27年1月～9月		平成27年9月	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年同月比	数量	前年同月比
生鮮野菜	9,406	145	9,573	102	8,216	127	1,353	166
加工野菜	14,174	122	17,061	120	14,214	121	1,772	128
野菜合計	23,581	130	26,634	113	22,430	124	3,125	142

主な生鮮野菜の輸出先(平成27年9月)

	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
ながいも	571	アメリカ	274	台湾	247	シンガポール	48
たまねぎ	172	台湾	164	香港	6	マレーシア	2
にんじん及びかぶ	155	台湾	153	香港	2		

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.htmlに掲載しています。
※無断転載禁止。レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関しても、当機構は一切の責任を負いません。